

会派視察・研修報告書

会派名 市民ネットワーク

代表者名 井上あけみ

1 日 に ち	令和3年3月7日（日） 13:30～15:30
2 視 察 先 研修名、主催者及び会場	ヤマカまなびパーク多治見市学習館 5階学習室501 災害ボランティアが実践するブルーシートの張り方 防災講座 主催：多治見市学習館 共催：市民活動交流支援センターぽると多治見
3 参 加 者	井上あけみ
4 研 修 内 容	「災害ボランティア 愛・知・人」による実践講習会 講師：災害ボランティア 愛・知・人 代表理事 赤池博美
5 所感、主な内容、提言事項、課題等	地震、台風時には様々な被害に遭遇するが、自宅の破壊、特に今回は屋根の被害に対する応急措置として、ブルーシートの張り方についての防災講座という事で、大変関心を持って参加した。 講師として招かれた皆さんは、各地で起きる屋根の被害に特化してボランティアを行い、経験を積み信頼をされてきた方々である。 当日は屋根の模型(瓦屋根で 1.5メートル×2メートルくらい)を持ち込み、様々な道具、安全確保の器具、材料を持ち込み、説明をしながら、実際ブルーシートを張って見せてくれた。 手順としては ① 土嚢やブルーシート、ロープの材料選び、日光等で劣化しないもの 部隊的にはシートは 3000～4000 番、土嚢袋は UV のもの ロープはマイカ線(ビニールハウスで使うもの)を用意する。 ② 安全第一で命綱・親綱の確保(取り付け場所、結び方)ヘルメット、安全帯(命綱と体をつなぐもの、カラビナやプルージック)、できれば地下足袋。 ③ 土嚢袋には割れた瓦など入れない。目いっぱい入れない。 ④ あらかじめ屋根のどこが破損したのか確認したサイズを地上でカットしておく。地上で、シートを広げ、中心に印をつけ、その後広げやすいようにたたむ。屋根の上は作業しやすいよう片づけておく。壊れた瓦は取り除き段ボールを 1 枚の瓦の大きさにカットビニールなどで包み、これを代用して凸凹を無くしておく。 ⑤ 屋根ではシートを効率的に張る場合、地上で野地板とシートを固定しておくくと土嚢の数を減らせ、巻き上げられにくくなる。等 *原則はプロに依頼する事が一番大事ですとの事。

5 所感、主な内容、提言事項、課題等	【所感】 災害時の対応として、飲料水や食料、非常用トイレ用品、家具の固定器具など、相応の準備の必要性はある程度PRされているが、屋根の被害対策はあまり言われていない。 千葉県台風被害で、多くの家屋で屋根の被害により、ブルーシートが足りなくなった等の報道を受け、改めて、雨漏り対策について学びたいと参加した。 屋根上の作業は大変危険を伴うので、すべての人には勧められないが、家の中でも、雨漏りの部屋の中にブルーシートを吊り、高低差をつけ、一か所に雨水を導くことで、室内の被害を最小限に防ぐことができるという指摘は、誰でもできることで参考になった。1軒に2～3枚くらい大きめのブルーシートを用意する事は、災害時の雨漏り対策として、有効と判断した。
6 写真等 ※視察の場合は必須、研修の場合は任意	